

様式1

令和7年度 学校評価

学校教育目標		自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～											
a ミッション		小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成					a ビジョン		・向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・規範意識を身に付け、自他を大切にする生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。				
尾道市立美木中学校													
評価計画					自己評価					学校関係者評価		改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月g 達成値	1月g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ ロ ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の育成	向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。	豊かな関わり合いのある授業を創造し、生徒の思考力・表現力を育成する。	・授業研究を行い、学び合いを充実させる。	1人1回、学び合いのある授業提案を行い、その後の研修で検証を行う。	100%	100%		100%	A	【成果】 ・年度当初に本年度研究の方向性を共有し、研究授業に向けて全員で指導案検討を行うなど、教育研究が組織的な動きとなるように体制づくりを行った。 【課題】 ・生徒の思考の面で、どのような学習活動を行えば生徒が主体的な活動となり、「深い学び」につながる「学び合い」活動となるかについて不安や悩みをもっている先生方がいる。	3	【成果】目標値に対して達成度が高く、十分な成果を認れていると思います。 【成果】昨年度に引き続き3年生の学力テストが上位になったことは先生方の努力により基礎・基本の定着を重視した授業改善が進んでおり、生徒の学習意欲が向上している点が高く評価いたします。 【課題】一方で家庭での学習時間が50%以上の生徒が足りていないため、更に学校と家庭でどう支えるかの連携を考慮する必要があると思われます。 【成果】「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した生徒の割合が84%と高い数字となり成果が出ている。 【課題】全教科での統一した話し合い活動の形が定まるよう、早急にに取り組む必要がある。 【今後の取組として】・家庭での協力が必要ですが、生徒会が取り組んでいるメディアデトックスデーを強化してはどうでしょうか？ ・家庭学習の時間の確保については、生徒自身のやる気に左右されることが多いが、それ以上に保護者の意識によっての差が大きくなると思われる。保護者に向けた取組も必要ではないか。	・研究授業に向けた指導案検討では、事前に指導案検討グループを作成し、思考の面でどのような活動を行えば生徒が「深い学び」につながる学習活動になるかと複数で検討できる体制を作る。事後協議で、研究授業との面で、どのような課題や発端で生徒が主体的に学びに向かっていたかについて協議を行うなど視点を絞った協議を行う。 また、2学期も授業参観週間を確保し、お互いに授業を見合い、意見交流を行う中で先生方の悩みが解決できるようにする。
			・各教科・各領域において、学習目標達成を見取る手立てとして、学び合いの場を設定し、思考力・表現力を育成する。	学校評価生徒アンケート「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	84%		99%	B	【成果】 ・どの教科でも「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。」に肯定的に回答する生徒の割合が84%となった。 【課題】 ・話し合う活動のルールや流れなど、全教科で統一した話し合い活動の型が決まっていない。		・国語科を中心として、「話し合いサポートシート」を作成し、全教科で話し合い活動のルールや流れなどを統一していく。8月下旬に校内研修で、「話し合いサポートシート」の説明を行い、2学期から全教科で実施できる体制を作る。	
豊かな心と健やかな体の育成	規範意識を身に付け、自他を大切にできる生徒を育成する。 自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。	リーダーの育成と、お互いを認め合える集団づくりを進める。 生徒に三点固定(起きる時間、家庭学習時間、寝る時間)をさせ、基本的な生活習慣を確立する。	・生徒リーダーを中心として学校行事や地域行事への積極的な参加を行う中で、生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。	学校評価生徒アンケート「自分には良いところがあると思う。」「自分の良さを周囲の人に認められていると思う。」に肯定的に回答する生徒の割合の平均	60%	65%		106%	A	【成果】 ・えいじゃんや体育大会の取組を通して、生徒のリーダー性を育成することができた。また、各役割を責任をもって果たす中で、自己有用感を高めることができた。 【課題】 ・目標値を達成することはできたが、35%の生徒は否定的評価をしていることが課題として上げられる。	3	【成果】家庭学習時間の達成以外の項目は、達成値が高く成果が出ていると思います。 【課題】家庭学習時間の達成値を上げること、そのためには、ご家庭での声掛けが大切になってくると思います。 【成果】授業以外の学校行事に多く取り組まれており、生徒が協力や自己表現を通して豊かな人間関係を築けているように思われます。 【課題】アンケート結果の先生と生徒の「あいさつができて」という認識のズレ。 【成果】規則正しい生活をしていると肯定的に捉えた生徒の割合は74%と概ね高い数値となっている。 【課題】定められた学習時間を達成することができたと考えた生徒の割合は43%と低い数値となっている。家庭学習の大切さ、必要性を自覚させるよう取り組む必要がある。 【今後の取組として】規則正しい生活リズムが定着できていない生徒については、学校と保護者の連携を密にして、適正な指導を行う必要がある。	・学校行事(修学旅行・文化発表会・音楽コンクールなど)を生徒が主体的に進めていく中で、リーダー性を育成していく。 ・ピア・サポートタイムを中心とした人間関係作りで、生徒同士が互いの思いを認め合えるようにしていくとともに、生徒間でサポートができるような環境作りを進める。
			・ディリーライフによって生徒の起床時間、家庭学習時間、就寝時間を確認し、担任や学年の教員を中心にサポートを行う。また、課題のある生徒に対しては定期的に生活習慣を振り返らせ、規則正しい生活を送ることへの意識を高める。	学校評価生徒アンケート「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活をしている。」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	74%		106%	A	【成果】 ・ディリーライフの記録や個人面談などを中心に生徒の生活状況を把握し指導に繋げることができ、生活習慣の定着を図ることができた。 【課題】 ・一方で、メディア(テレビ・ゲーム・ネット等)に触れる時間が長くなり、生活習慣が乱れている状況もある。		・上記の調査やディリーライフの記録を基に、面談などを通して、適切に支援を行っている。 ・学校と家庭が同じベクトルで支援していけるよう、保護者との連携を密にし、考えを共有していく。	
学校における働き方改革	教職員が、本校に勤務して良かったと思える環境を実現する。	教職員一人一人の業務改善の意識を高め、担当業務の適正化に取り組む。	・毎月の学校経営会議で行事の精選や、スクラップ&ビルド、業務分担の見直しや、進度調整等を行う。	働き方改革アンケート「生徒と向き合う時間が確保されている」に肯定的に回答する教職員の割合(令和6年6月本校80%)	82%	100%		122%	A	【成果】 ・生徒指導事案等に係る対応が組織的な対応として定着しつつあるとともに、部活動に積極的に参加するなど、生徒一人一人の個に応じた対応に努めることができていた。 【課題】 ・生徒の不安や悩みが発信できる場を更に設ける必要がある。	3	【成果】生徒と向き合う時間が確保されているという達成値が高くてとても良いと思います。 【課題】先生の時間外勤務割合の達成値が低いため、上げていってほしい。 【成果】校長先生の「にぎやかな学校にしたい」という考えにより、先生同士の良好な関係が築けており先生の課外授業の提案等、充実した職場環境が整えられていると思います。 【課題】一方で45時間以下の教職員の割合が25.6%と低く、仕組みの改善が必要かと思っています。 【成果】「生徒と向き合う時間が確保されている」では、全教職員が肯定的に捉え100%となっています。 【課題】時間外勤務時間が月45時間以下の教職員の割合が25.6%であり、非常に低い数値になっている。特定の職員に負担がかからないように適正な役割分担等を行う必要がある。	・生徒と向き合う時間の中で教育相談体制の構築により、生徒からのSOS等の相談が可能となるシステムを校長のリーダーシップのもと教職協議と連携し構築する。
			・毎月の衛生懇話会で、全教職員の時間外勤務時間を分析し、勤務時間の長い教職員への取組を話し合う。	「時間外勤務時間月45時間以下の教職員の割合」(令和6年6月市中学校平均33%)	50%	25.6%		51%	D	【成果】 ・分掌内における役割分担の実施及び各主任が進捗状況を把握しサポートする体制づくりの構築につながっている。 【課題】 ・特定の職員による時間外勤務時間が目標値より多い状況がある。		【今後の取組として】時間外勤務が減るよう、周りの声掛けや業務の役割分担で目標値を達成してほしいと思います。	

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80B：80≦（ほぼ達成）<100
D：70≦（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。